



1) テーマ 「学校はサッカーチームのサポーター! 応援しながら地域を盛り上げる取り組みについて」

2) カテゴリー: ④連携(地域・多職種等)

3) 学校概要 学校名: 福島看護専門学校、所在地: 福島県福島市栄町1番37号、課程名: 3年課程、1学年定員数40名、修業年限3年

内容:

本校は地元 J3サッカーチーム「福島ユナイテッド FC」の J リーグオフィシャルクラブパートナーとして、チームを応援しています。学校行事としても年1回、サッカー観戦を実施しており、チームカラーでもある赤の全員おそろいのチーム T シャツを着て、全校生、全教職員一丸となって声援を送っています。

今年度は、6月2日(日) 悪天候の中の観戦となりましたが、福島市とうほうみんなのスタジアムにて対カマタマーレ讃岐戦を観戦してきました。結果は残念ながら負けてしまいましたが、地域のサポーターと共に盛り上げてきました。



いけいけ GoGo!
福島!



雨の中、声援を送る学生と教職員



チームとつながる



← とうほうみんなのスタジアム、入場ゲート看板



地域とつながる



サッカー観戦以外にも、学内の講義や演習でチーム T シャツを着用しています。また、学校玄関に J リーグランキングボードなども設置し、勝敗をタイムリーに知ることができます。学校全体でチームを盛り上げ、応援することで地域とのつながりを意識できるようにしています。本校の理念は、地域で生活している人々に視点を置き、地域で活躍できる看護師を育成することです。在学時の地域とのつながりや体験を糧に、将来は地域に貢献できる看護師になることを願っています。

↓ 「基礎看護学概論」 講義の様子

チーム T シャツを着て講義を受ける学生

燃えろ!



↑ 「地域とくらし」車いす・白杖体験の様子

← 学校正面玄関

J リーグランキングボード



正面玄関にユニフォームを展示

テーマ「地域の方との連携による授業の取り組み」

カテゴリー：④連携（地域）

1. 学校概要：学校名：千葉県立野田看護専門学校 第二看護学科
 所在地：千葉県野田市中根 3 1 6 - 1
 課程名：2年課程 1学年定員数：40名 修業年限：2年

【内容】

- 1) 科目名：「地域コミュニティ演習」1年次前期（1単位 20時間）
- 2) 科目のねらい
 - (1) 地域コミュニティの在り方を学び、人はコミュニティの中でどのように生き、生活するのか、また社会と自身の関係性を理解する。
 - (2) 地域におけるフィールド学習や地域人材の協力を得ながら、地域への関心を高める。
- 3) 科目目標

身近なコミュニティに参加しながら、地域コミュニティの在り方を理解し、地域社会の理解を深める。
- 4) 授業内容と実際

「地域コミュニティを考えるプロジェクト」（プロジェクト学習）



図1 地域コミュニティを考えるプロジェクト（ビジョン・ゴールと提案テーマ）

R5年度は参加団体以外に市職員も参加し、活発な意見交換がなされた。

参加団体：①環境や自然を育てる団体	②公益社団法人 A青年会議所
③子ども食堂	④NPO法人 就労支援団体

表1 授業内容と方法

次	内容	方法
1・2	地域コミュニティとは 地域に関する情報収集 課題発見/ビジョンゴール/戦略	講義・演習
3～6	地域活動への参加 団体や地域住民との関わり	フィールドワーク
7・8	俯瞰・報告書まとめ	個人・GW
9・10	提案をプレゼンテーションする・成長報告書作成	発表会

学生は、初めに「地域コミュニティ」に関する基礎知識を学び、その後、本プロジェクトに参加する。プロジェクトの目指すビジョン・ゴールについて説明を受け、その後、参加団体に関する情報や市の現状を調べ、それらの情報から課題を発見し、フィールドワークを通して実際に地域の方々と触れ合う中でさらに課題を明らかにし、最終的に体験からの気づきも含めてビジョン・ゴールに向かって提案(図1 No.1～No.5)をまとめる。この一連の活動を通して、学生は、主体的に①課題発見力②思考・分析する力③発信力④人と関わる力⑤協働する力(チームワーク)を学ぶ機会となる。

また、本学科では、最終的な発表会に参加団体の方々を招き、学生と地域の方々との間でディスカッションを行う機会を設けた。

5) 授業評価

地域との連携・協力のもとコミュニティ演習は、各学校でも取り込まれており、体験学習は行われている。当校では、学生の提案書の発表会に市職員や参加団体の方に参加して頂き、その場で意見交換できたことで学生にとっても地域への関心度が高まった。より良くしていきたいとの思いから、その後もボランティア活動に継続参加している学生もいる。看護の視点からも「生活者」という視点での対象の捉えにつながる学習になっていると評価する。

第3回「私の学校自慢」

テーマ：「こどもおしごとらんど in 鹿浜」看護学生と看護教員の地域の繋がりづくり

カテゴリー：④ 連携（地域・多職種等）

学校概要：学校名：博慈会高等看護学院 所在地：東京都足立区鹿浜 2 - 1 - 15
課程名：3年過程一学年 40名 修業年限3年

わが校は、新カリキュラムより、一年次の5月に地域・在宅看護論実習Ⅰで警察署、消防署、学習センター、学童保育室で実習を行っている。この実習を通して学生たちは、地域住民や施設の方々との関わりにより地域での暮らし、各施設の機能と役割、そこで働く人々の役割、暮らしや健康に対する考えなどを学んでいる。次の基礎看護学実習Ⅰでは、地域における医療施設の役割、地域で受診行動を必要とする対象者や、健康障害による暮らしや生活への影響、看護の役割を学びに病院、診療所にて実習を行っている。

その中で昨年度、実習を受け入れていただいた、足立区にある鹿浜地域学習センターから一こども×地域×繋がり「こどもおしごとらんど」の協力を依頼された。この催しは、子どもたちと地域の繋がりづくりのために、センター内でブースを設け、子どもたちが各職業の担当者から説明を受けたり、ワークショップの体験を通して、様々な職業への興味関心の幅を広げる機会とする事業である。私たちは、学生2名、教員3名で「こどもおしごとらんど」のイベントに参加した。参加した児童は1年生から5年生までの10名程と保護者の方で2グループに分かれて看護師の仕事についての説明、医療器具の展示や育児モデル人形の抱き方、着替え、おむつ交換、心音、呼吸音、腸蠕動音の聴診体験、などを行った。看護師の仕事は子どもたちからの人気も高く、参加された親御さんも興味深々、モデル人形の赤ちゃんを懐かしそうに抱き上げていた。看護師の仕事の説明では、学生がこれまでの学習や経験をもとに子どもたちにわかりやすく説明し、主体的に参加することができた。笑顔と活気あふれる会場で地域との連携を実感した。子どもたちへのアンケートでは、特に赤ちゃんの抱っこ体験が楽しかったという感想が多かったようである。

手探りの中始まった地域の実習であったが、実習を通して、今回のワークショップという地域での活動にも繋がった。地域の子供たちに看護師という仕事を紹介し、興味関心を引き出すことができた。その他にも希望者が地域消防団への加入、地域のマルシェの参加、授業での民生児童委員さんとのグループワークなど、学校と地域との繋がりが少しずつではあるが増えている。令和4年と5年には西新井消防署および西新井警察署より感謝状をいただいた。

嬉しいことに、今年度も「こどもおしごとらんど」参加の依頼があり、今回は、学生数を増やし、地域との交流を更に深めたいと考えている。



令和5年こどもおしごとらんどより



写真4 D級ポンプの解説

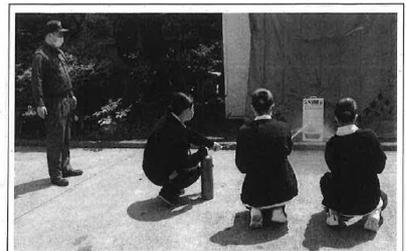


写真5 初期消火訓練：消火器（自衛消防訓練講習会への参加）

令和4年7月10日発行 東京消防より

テーマ	設置主体病院との一体化した教育連携・協力 地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして					
カテゴリー	③ 教育方法					
1. 学校概要	学校名	小澤高等看護学院	所在地	小田原市本町 1-1-17	課程名	3年課程
		1学年定員数30名		就業年限	3年	

内 容 地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして設置主体の病院と一体化した教育連携・協力の教育について報告する

設置主体病院との一体化した教育連携・協力
～地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして～

小澤高等看護学院 学院長 小澤顯一
教員一同

学院の沿革

当学院の位置する小田原は、後北条氏の「城下町」として発展し、江戸時代には東海道屈指の「宿場町」として栄え、明治期には政財界人や文化人たちの「別荘、居住地」として愛されてきた神奈川県西地域の中心都市です。緑豊かな山、清らかな川、雄大な海、肥沃な平野、温暖な気候。多くの先人によって築かれた長い歴史と伝統・文化が息づき、市の東部にはショッピングモールやアミューズメント施設がオープンし、小田原駅前には駅ビルやマンションが建設され大いにぎわっています。鉄道も5社6路線が乗り入れ、交通至便な街でもあります。

設置主体である医療法人同愛会は明治45年に現在の地に小澤病院を開設し依頼 112年余にわたり県西地区の地域医療の担い手として「地域住民が住み慣れたこの土地で少しでも長く健やかに過ごせる」ことを願い貢献してきました。現在では年間救急車を2000台以上受け入れている救急医療を担う地域の中核病院でもあります。病床数は202床です。当学院は県西地区の看護師不足と本法人が目指す地域医療の実現のため昭和63年4月に設立され開学以来37年を経過し900人余りの地域で活躍している卒業生を輩出している小田原地区では一番歴史の長い学校です。

学院は小田原城のすぐ近くにあり、屋上からは海の見える定員30名の女子だけの小さな看護学校です。ひとりひとりとじっくり向き合い国家試験合格に取り組み自律した看護学生の育成をめざしています。学院の教育理念は生命の尊厳と個人の尊重に係わる者として人を愛する慈愛に満ちた「やさしい心」を備え、専門的知識を常に吸収しようと自ら考える「科学する心」を持ち、常に自らを成長させる自律した人間として行動できる「自律する心」3つの心を持つ専門職を育成することです。設置主体の法人の理念である「医療を通じて社会に貢献する」を基礎として県西地区の地域医療の担い手として法人の趣旨を基に地域を愛し、理解し、そこに住む地域住民 1人 1人を大切に、その心のオアシスとなれる地域で活躍できる看護師を育成しています。

学院の教育の特徴

同一敷地内に学院の設置者であり設置主体病院である医療法人同愛会小澤病院があります。実習はもちろん講義や行事など、病院のスタッフが密接にかかわります。専門基礎分野の講義の多くは学院長(医師)を始め小澤病院の医師や薬剤師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士などが担当します。基礎看護技術は認定看護師も教授にきます。卒業前の統合実習にあわせて行う看護管理の講義では、教員、看護部長、副看護部長、各病棟師長、病院を管理する各部長、責任者からそれぞれの立場での病院管理の講義を受けるのも特徴の一つです。

実習の70%は小澤病院で実施しています。1月に1度、看護部長、副看護部長をはじめ各病棟、透析室、手術室、地域連携室、外来等の師長、実習指導者等と学院の教員全員で実習指導会議を行います。実習する病棟の指導者だけでなく看護部の幹部全員が出席して学院の教育方針、実習内容等について共有して指導に当たります。また病院で実施している実習指導委員会に教員も出席して意見交換を行います。現場で実際に学生指導する指導者からはかなりシビアな意見がでることもありますが忌憚のない情報交換が行え、病院の指導者と教員で学生がより良い実習を行える様に調整をしています。小澤病院の看護師の8割が卒業生なので実習や教育内容についてもイメージができスタッフ全員が温かく学生を迎えています。

臨地実習では医師や他職種から学生は受け持ち患者について病歴や治療、データ、画像の見方など臨床講義を受けることができ、よりエビデンスに基づいた患者理解ができます。学生は病院で実施している多職種が連携して行う退院調整カンファレンスに出席することにより多職種の連携と受け持ち患者への移行支援について学び在宅支援など継続看護についても学んでいきます。3年の後半の実習では手術室、外来、透析室、薬剤部、診療技術部門(栄養科、検査科、放射線科、リハビリ室など)に行き、治療・診断に係る職種の業務内容から患者の療養生活を支える職種の院内連携について学びます。看護部だけでなく病院で働く医療スタッフ、事務部門の協力を得て実習を行うのも特徴の一つです。

病院と一体化した教育の一環として卒業生を病院から大学に派遣し看護教員の免許を取得させ、専任教員として教育に当たってもらいます。

講義・実習だけでなく法人の幹部職員は入学式、卒業式、学院祭、年末のキャンドルサービスなどの節目の行事に来賓として出席し学院との連携をはかります。副学院長は毎週行われる病院の幹部会に出席し、学院が今、実施している教育内容等を伝え病院幹部と共有します。学生の健康管理は病院の産業医が校医を務めています。週1回学院を訪れ担当教員と意見交換をして学生の健康状態について情報の共有をしています。また、病院の防災担当による防災訓練を実施しています。

学習支援の一環として病院が契約しているWEB配信型eラーニングコンテンツを学生が使用できるようにアドレス、ID・パスワード等の設定を病院の企画部長が学院に来校し学生に使用方法を教えます。「国家試験の過去問題」「看護教材の動画」の視聴が可能になりになり効果的な学習ができます。

令和5年度からは講義とは別に「楽しく看護技術を学ぼう」をコンセプトに学院と小澤病院の共同学習会(1回/月)を卒業生(1・2年生スタッフ)を指導者として1年生に技術演習を行いました。ほぼマンツーマンで教えてもらうため学生も指導者も真剣です。学生からはとても楽しかったという感想でした。令和6年度からは1年生だけを対象とするのではなく2年生も一緒に実施する予定です。

コロナ禍には卒業時の3年生を送る会を見送っていましたが、今年度からは学院の在校生、病院の職員と共同でバレーボール大会を実施する予定です。小澤病院の職員も学生の卒業を祝福します。

当学院の教育の特徴は講義・実習だけでなく様々な学院運営に設置主体病院の職員が協力して学院と一体化して、法人の理念である「医療を通じて社会に貢献する」地域住民 1人 1人を大切に、その心のオアシスとなれる地域で活躍できる看護師の育成を行っているところです。



学院からみえる小田原城址公園



実習指導会議の風景



実習中に医師から受ける臨床講義



小澤病院との共同学習会

◆テーマ：臨床指導者と共に取り組む多重課題演習

◆カテゴリー：教育方法（演習）

◆学校概要：横浜市病院協会看護専門学校 横浜市港南区港南台 3-3-1 看護学科 80名 3年制

◆内容：看護の統合と実践 「看護における医療安全」の中の多重課題演習（3年次、11月～12月頃）

【ねらい】 多重課題・時間切迫という状況下で、自分の能力の限界・行動の傾向を知ることができる。また事故防止や倫理的配慮の観点から自己の行動を振り返り、看護を提供する上での優先順位の判断や応援の必要性について考えることができる。

【方法】

- ①看護師役の学生が病室（2人部屋）に援助を行う目的で訪室するが、そこで起こる想定外の状況に遭遇して対応する。（担当する事例に関しては、演習当日に発表あり）
- ②2人部屋の事例については事前に提示し、観察や対応ができるよう学習しておく。
- ③臨地実習施設の臨床指導者が患者役として参加し、リアルな臨床現場の状況を再現してもらう。
- ④2人部屋のもう1人の患者役は学生が行い、観察者役の学生は演習場면을観察しシートにメモする。
- ⑤1事例終了ごとにリフレクションを行い、それぞれの役割から意見を述べあう。
- ⑥全ての演習終了後に、演習を通しての学びをグループ全体で話し合い、学びを共有する。

【学生の学び・感想】

- ・優先度を瞬時に考えて行動することの難しさを知った。
- ・起きてしまった後の対処行動も大切だと感じ、1人でできることなのか、応援を求めるべきなのを考え、迅速に行動することが大切だと思った。
- ・ただ声かけをするのではなく、相手の状態を把握した上で対応しなければいけないことを学んだ。
- ・応援要請の際にも、短時間で的確な情報を伝えることの難しさを学んだ。
- ・リアルな臨床現場がイメージできた。



【教員の感想と演習の効果】

- ・想定外の出来事への対応を経験し、リフレクションを通して自己の傾向に気付くことができた。
- ・現場の臨床指導者の参加により、リアルな臨床現場をイメージすることができ、具体的な対応方法等を理解することにつながった。
- ・臨床指導者も学生のレディネスの把握につながり、これから現場で働く新人看護師の指導にも役立つのではないかと推測する。臨床現場との顔の見える関係作りができ、今後の臨床実習においても有益であると考えている。

医療安全チーム代表：伊賀恵美



テーマ	12の窓で学生支援につなげる 入学面談シート
カテゴリー	その他
学校名	横浜市病院協会看護専門学校 3年課程 1学年・定員80名 神奈川県横浜市港南区港南台3-3-1

面談シートを作成する上でこだわった工夫 3つのポイント

- その1 **A4 サイズ1枚でまとめる** → 学生の記載の負担軽減、ファイリングのしやすさ・見返す際のアクション数の軽減
- その2 **12項目の質問を窓方式** → 厳選した12項目の質問をフレームで記載しやすく、パッとみることができる
- その3、**週間予定の欄を設ける** → 学生の生活背景、学習習慣への姿勢などの把握につなげる



▶ 具体的な活用方法 ◀

- ① 新入学の学生全員に紙ベースで配布し、手書き記載を指示する
- ② 各クラスの担任が個人面談時にシートに基づいて面談を行う
- ③ 必要時、追記を行い、面談担当教員のサインをする

★Pickup★
教員の学生支援への想い、守秘義務の順守について伝えています。

<input type="radio"/> 回生 入学面談シート		学籍番号：	氏名：	あなたが看護師になるための支援をしていきたいと考えています。 ★この資料は、守秘義務を順守し、個人情報として取り扱います。		
看護師になろうと思ったきっかけ、目指す理由	日常生活の中の困りごと 食事・睡眠・排泄・体質・持病・心理面・感覚など	体調管理の工夫、医療機関への受診状況(あれば)	日常の中での楽しみ(趣味、ご褒美、好きなこと)			
今までの学習の仕方(具体的に) 机におかかって勉強する頻度はどの位だったか (○ または 記載のこと) 試験前のみ・週()日・()時間	看護学生としての学業専念のための準備 これからの学習にはどのように取り組む予定か	モットーや性格 / 思考や行動の癖	困難な場面での対処の方法(思考・行動)			
自身や家族の勤務する(していた)病院や施設など ※ いつ どこで だれが 職種 *実習先にならないように可能な限り配慮します。	これからの学習や学校生活で心配なこと	もう一人の自分がいたら 「今の自分」にどんな声かけをしてあげたいか	その他、担当教員へ伝えておきたいこと			
【 週間予定 】 アルバイト・家庭や家事の予定・勉強予定時間 など。						
月	火	水	木	金	土	日

★導入してみてもの気づき★

- *従来の A3・折りたたみ形から、A4・1枚にすることでファイリングも見返しも「1アクション」で可能となり効率的となった。
- *オーソドックスな質問項目にプラスし、「もう1人の自分がいたら、今の自分にどんな声掛けをしてあげたいか」を追加した。
この項目は、「学生自身の素直な気持ちや感情を表現する」ことにつながっていると感ずることが多く、これから始まる学校生活への意気込みの記載や、自己の性格傾向が表れているような印象をうけるコメントがあった。
- *12の窓フレームにすることで、記載がしやすくなったのか、若干だが以前よりも「記載の空欄」が少なくなった印象がある。
- *今後は、最寄駅や通学時間、初回面談日時の欄をプラスするなど、シートの記載内容を検討していきたい。その際は、学生記載の負担を考慮することを考慮しつつ、学校の教員全体が学生理解につなげられる1つのツールになるよう努めたいと考える。

テーマ： あいうえお作文で創る「感染しない・持ち込まない・拡げない」

■ カテゴリー： その他

■ 学校概要 横浜市病院協会専門学校 3年課程 | 学年定員:80名 修業年限 3年

■ 所在地 神奈川県横浜市港南区港南台 3-3-1



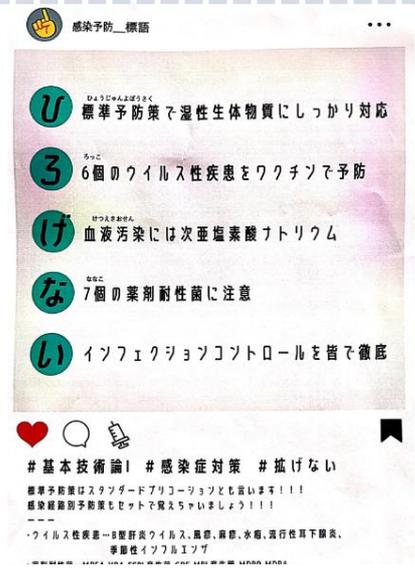
■ 学習目的 看護師に必要な感染対策に知識の整理・定着に役立てる

■ 学習目標 授業の内容をふまえ、あいうえお作文で「感染しない・持ち込まない・拡げない」を創造・表現できる

進め方



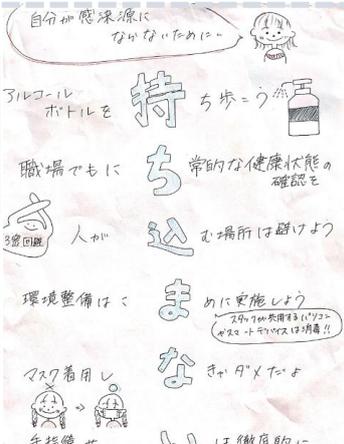
- ① くじ引きで、「感染しない・持ち込まない・拡げない」いずれかを決定する。
- ② 個人で「A4・1枚」の中で、「パッとみてグッとくるインパクトのある工夫」を考え、自由に表現する。
- ③ 発表会当日は、カテゴリーに分かれてホワイトボードに張り出し、発表・共有を行う。
- ④ 各自がベスト1だと思った作品に、付箋を用いて投票する。→ リフレクションを行う。



イラストインパクトNo1・最優秀作品↑

侵入禁止マークと病原体のコラボ↑

拡げない SNS 拡散をイメージした作品↑



学生 VOICE

思いつかない標語が
とてもためになった

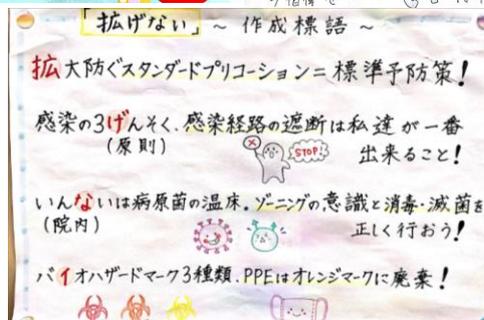
様々な視点から、
スタンダードプリコーションを学べ、
行動への動機づけになった

要点を復習できた

テスト対策になった

クオリティにびっくり
とても楽しかった!

具体策がイメージできた



テーマ : 「臨床判断能力の育成を目指した科目設定と授業方法の工夫」

カテゴリー : ③ 教育方法 (演習)

1. 学校概要: 学校名: 組合立静岡県中部看護専門学校 所在地: 静岡県焼津市東小川一丁目6番地の9
課程名: 3年課程 1学年定員数: 40名 修業年限: 3年

第5次カリキュラム改正において、看護基礎教育で強化すべき能力に「臨床判断能力」が挙げられた。この「臨床判断」を行うための基礎的能力の育成を目的とした自校の取り組みを報告する。

自校では、新カリキュラムとして、基礎看護学の中に臨床判断Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという科目を新設した。段階的に臨床判断の思考を身に付けられるように、2年次に臨床判断Ⅰ・Ⅱ、3年次に臨床判断Ⅲを履修する。臨床判断Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業はすべて演習とし、グループワークとシミュレーション学習により展開している。クリスティン・タナー氏の臨床判断モデルの思考過程に基づき、臨床判断Ⅰでは「気づく」力の強化を図る。対象の状態を1年次で学んだ解剖生理や病態生理の知識を活用して予期し、事例患者の状態や変化を捉え、対象に何が起きているのか解釈するシミュレーションを行う。臨床判断Ⅱでは、臨床判断Ⅰの授業での学びを活かしながら、「気づき」「解釈」からさらに「反応」「省察」の一連の思考過程を経験する。池西静江氏が提唱する反転授業を参考にし、学生個人で事例患者についてのアセスメントを行ってから授業に参加する。授業では教員が演じる患者の変化を捉え、反応の仕方を考え実践する。臨床判断Ⅱの単位認定試験はOSCEを実施し、実際の言動のみならず、実践後の振り返りを教員と学生とともに行う。学生が何に気づき、解釈して反応(行動)したのか、思考発話を促しながら臨床判断の思考を確認する。臨床判断Ⅲでは、患者の変化の気づきから始まり、現状を改善するための看護援助まで実施する。リアルな臨床場面(終末期にある患者との関わり)を再現し、患者のコンテキストも考慮しながら思考することを求める。患者に起きている問題や苦痛に対する看護援助を「反応」とし、適切な援助の実施をグループで考え実践する。臨床判断の「気づき」から「反応」までを振り返り、事例における最善についてクラス全体でディスカッションする。そして、行為後の省察をとおしてして学生各自で自己の課題の明確化に努める。

履修時期	科目	時間・単位	到達目標
2年次 6~7月	臨床 判断 Ⅰ	15時間 1単位	1. 既習の知識・技術を活用し、対象の状態を予期する。 2. 対象の状態を把握し、変化に気づける。 3. 対象の状態・変化を解釈し、対応を考えることができる。
2年次 10~12月	臨床 判断 Ⅱ	15時間 1単位	1. 対象の状態の予期から、対象の状態・変化を適切に解釈する。 2. その場の状況から、適切に判断し、コミュニケーションを図りながら対応する。 3. 自己の看護実践を振り返り、実施の評価と自らの行為について省察する。
3年次 4~5月	臨床 判断 Ⅲ	15時間 1単位	1. 臨床を想定した場面から、必要な対応を考え、実践する。 2. 実践した援助を、臨床判断モデルに基づき振り返り、看護者に必要な判断能力を養う。 3. 自己の看護実践の振り返り、看護実践の課題を明らかにする。

3. 実施後の評価

学生による授業評価からは、臨床で正しい判断や必要な観察をするための知識の必要性を実感した、自己の課題に気づけた、といった意見があった。2年次の臨床実習で、患者の変化に気づき、予測されることを意識しながら、患者の現状を探ろうとする学生の姿が見られた。2年次の段階では見られなかった姿であり、臨床判断という授業の成果かもしれない。3年次の臨床実習での学生のあり様からも評価していきたい。今後も効果的な教育方法を模索し、臨床判断能力の育成を目指していきたい。



テーマ「あいさつが飛び交う学校・職場づくり！！」

内容：カテゴリ：⑤その他

当校では教科外活動として「マナー研修」を実施しています。

公益社団法人 日本海員救済会
えきさい看護専門学校

〒454-0854 愛知県名古屋市中川区松年町 4-48
3年課程 1学年定員数 40名 修業年限3年

身嗜みだけでなく、行動や丁寧な言葉遣いに注意することで患者さんとの信頼関係が築きやすくなった。看護師として働く際にも忘れないようにしたい。

ここが違う！ えき看のマナー研修！！

- ・3年間を通して接遇力を磨いていく
- ・教職員も参加し、学校全体で接遇力アップを目指す



今後、社会に出る上でいろいろな人と関わることが増えるため、マナー研修で習ったことを意識していきたいと思います。



(評価)・マナー研修後(4月)
・夏期休業前(7月)
・統合実習終了後(12月)

実習施設の看護部長、指導者より…

- ・礼節をもって実習に臨めています
- ・患者さんへの関わりがとても丁寧です
- ・指導者だけでなく、病棟のスタッフや他職種へのあいさつもしっかりできています
- ・学生を見ていると「職業人」を育てているということが伝わってきます



3年生:看護専門職にふさわしい接遇技術を身につける

- (内容)・好感度表現力の評価と修正
- ・自分の印象に気づく
 - ・困った接遇場面の振り返り
 - ・説明力をつける
 - ・電話の受け方とかけ方



(評価)・マナー研修後(5月)
・基礎看護学実習Ⅲ終了後(7月)
・おとなの看護学実習Ⅱ終了後(2月)

2年生:相手や場に応じた接遇技術を身につける

- (内容)・信頼感のある話し方・聴き方の練習
(敬語、言葉選び、姿勢、視線)
- ・好感度表現力の改善と向上
(挨拶、身だしなみ、指導の受け方など)



マナー研修を終えて自己評価するだけでなく、段階を追って節目節目に振り返りシートを使って、自己の接遇マナーを振り返り、より実践的に身につくようにしています。
評価項目は学年によって30~34項目あります。

接遇マナー研修・振り返りシート 集計結果(回収率100%)

(評価)・マナー研修後(4月)
・基礎看護学実習Ⅰ終了後(9月)
・基礎看護学実習Ⅱ終了後(3月)

1年生:基本的な接遇技術を身につける

- (内容)・身だしなみ、挨拶、表現、言葉づかい、態度の好感度表現力をつける
- ・信頼感のある話し方・聴き方の練習
(敬語、言葉選び、姿勢、視線)



教職員も必ずどこかの学年のマナー研修に参加し、接遇力を振り返り、学び直しを行っています。
新任教員は、講師より名刺の受け渡しについてご教授いただくのが慣例となっています。



接遇力がUPしているわ！！

内容	n=42			n=42			n=42			
	2	1	0	2	1	0	2	1	0	
身嗜み	清潔感 (襟のある服、肌の露出が少ない)	19	22	1	38	4	0	42	0	0
	控えめ (明るく健康的な顔、男性は髭にも注意)	25	17	0	40	2	0	38	3	0
	上品 (髪は肩と耳と額を見せる)	6	27	9	36	5	1	38	4	0
表情	笑顔 (優しさ・明るさ) 'KIVI'	19	22	1	33	9	0	34	8	0
	視線 (相手の目を見ているか)	19	20	3	33	9	0	39	3	0

「私の学校自慢」

1. テーマ：「松阪地域に愛着をもち地域で活躍する看護実践者を育成するためのとりくみ」
2. カテゴリー：②教育内容（授業・演習・実習など）
3. 学校概要
 - ・学校名：松阪看護専門学校
 - ・所在地：三重県松阪市鎌田町 145-4
 - ・課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年
 - ・教育理念：地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する。
 - ・松阪に愛着を持ち地元で活躍できる人材育成のために、カリキュラム改正に伴い「地域と暮らし」1単位30時間を1年次前期科目に新設した。

4. 内容

この科目は「まち歩き」から始まる。8つのグループに分かれ、学校より徒歩圏内にある松坂城や御城番屋敷、本居宣長旧宅、松阪もめん手織りセンターなど松阪の歴史や文化が感じられる場所を訪ねる。また、松阪誕生より創業し400年以上の歴史をもつ老舗のお菓子屋さん等も訪ねている。まち歩き後は感じたことや気づいたことをグループでまとめ発表する。

グループ発表を終えた後は松阪市長をはじめとし、設置母体である松阪地区医師会の会長および地域の保健医療福祉の各専門分野の方々からの講義を受ける。講義を通して松阪市の医療提供体制の特徴や保健活動また防災活動など、命と暮らしを守るための松阪地域の保健医療福祉体制について学ぶ。さらに、地域で開催されるふれあい体育祭に参加し地域で暮らす障がいのある方とその家族、障害者団体の方々との交流を図り地域で催されている福祉活動の実際を体験する。

以上のようなさまざまな体験を通して松阪のまちのことを知り、さらに保健医療福祉体制が住民の暮らしと健康にどのような影響をもたらすかを考えるきっかけとなっている。また、この科目で得た知識や気づきは後に続く地域・在宅看護論概論の導入にもなっている。

5. 担当者の感想

松阪に愛着を持ち地域で活躍する看護実践者の育成が本校の願いであるが、この科目はそれを実現するための第一歩になっていると感じる。まち歩きでは案内や説明など多くの人にお世話になり、松阪の人と人とのつながりや温かさに触れることができる。そして地域の各専門分野の方の講義を聴くことで、住民の暮らしや健康は様々な人によって支えられており、いずれは自分もその一員となるという憧れや自覚を持つ機会になっていると感じる。何より入学早々の1年生が初めてグループ活動をする科目であるためお互いのことを知り、楽しみながら学べる科目であると感じる。



「まち歩き」本居宣長旧宅にて



「まち歩き」発表・意見交換



松阪を代表する豪商の邸宅。

旧小津清左衛門家は紙問屋として発展した小津家の本宅で、町家造りの主屋や2棟の蔵を保存・公開しています。

「まち歩き」の発表スライドの一部

「私の学校自慢」

1. テーマ：「リハビリテーション専門学校生との協同学習」

2. カテゴリー：③教育方法（授業・演習・実習など）

3. 学校概要

- ・学校名：松阪看護専門学校
- ・所在地：三重県松阪市鎌田町 145-4
- ・課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年
- ・教育理念：地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する。
- ・カリキュラム改正に伴い「多職種連携」1単位15時間を3年次後期に新設した。本科目の中では伊勢志摩リハビリテーション専門学校生との協同学習を取り入れている。開講は令和6年度からであるが、シームレスな看護教育を目指し令和3年度より旧カリキュラム学生も教科外活動として協同学習を実施している。

4. 内容

「多職種連携」科目の8時間分で理学療法士科の学生と協同学習を実施する。協同学習は一人の事例患者さんの情報を看護師、理学療法士それぞれの職種の視点から整理し、1枚の“多職種連携情報共有ワークシート”を使って整理していく。この情報整理を通して一人の患者さんの全体像を共通理解をする。その後、患者さんの退院に向けて共通の目標を話し合い、具体策を考える。多職種で協力して実施する事、看護師、理学療法士が独自の役割として担うことなど役割分担も含めて考えていく。また、多職種で効果的な連携を行うための留意点や工夫点なども話し合う。話し合った結果をグループ発表し学びを深める。グループワークには2校それぞれの教員がファシリテーターとなる。効果的なファシリテートができるようファシリテーションガイドを共有しそれを参考にしながら話し合いを見守る。

5. 担当者の感想

学生は実習の場で多職種が参加しているカンファレンスを見学することはあっても、実際に当事者としてディスカッションする経験はほとんどない。本科目では看護師と理学療法士と2職種ではあるが、意見交換できることは大きな意味があると考えます。他職種の得意とするところを発見し、連携・協働の大切さを実感することができる。そして、職種が違うからこそ視点や大事にしたい点が異なり、多様な視点から統合的に患者さんを捉える必要があることを学ぶことができる。さらに他の職種と効果的な連携を図るには他の職種の意見に耳を傾け、共通の用語を用いてコミュニケーションをとるなど連携方法にも工夫がいることを身をもって感じることができる。

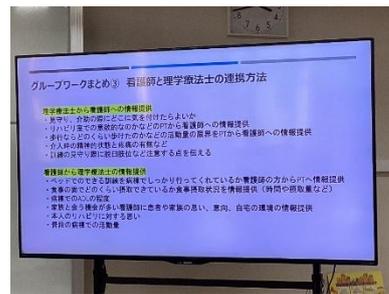
このように協同学習は、松阪看護専門学校、伊勢志摩リハビリテーション専門学校両校ともに得るものが多く、今後ますます多職種連携の重要性が高まる医療や介護においてなくてはならない科目であると感じる。



それぞれの職種の視点から積極的な意見交換を行います。



看護師と理学療法士、2校の学生が協力して発表します。



看護学生が小学校の授業を担う!?

カテゴリー：②教育方法

学校概要：公立若狭高等看護学院 福井県小浜市大手町 12-48 3年課程 1学年定員 40名 修業年限 3年

小浜市の教育委員会や小学校の
協力を得て実現しました♪



小浜市公認キャラクター
「さばとらなちゃん」

当学院では、母性看護学の授業の一環として学院が位置する小浜市の全小学校を対象に毎年2年生が「性に関する授業」を実施しています♪

保健指導ではなく、小学校の教育課程の一部を実施するために市の教育委員会や小学校にも協力を仰ぎ、令和4年度より実現しました!!今年度で3年目を迎えるこの取り組みは、小学校から高い評価を得ており、今年度も市内のすべての小学校から実施の希望がありました。

以前は、架空の小学生を対象に学生ユーチューバーという設定で性教育の動画を学生に作成してもらっていましたが、学生から「実際に小学生がこれを見てどんな反応をするのか知りたい」といった声が多く聞かれたことが、この企画にチャレンジするきっかけとなりました。

取り組み内容

実施する授業は、小学校の教育課程である保健体育の一部「思春期にあられる体の変化」を担当します。見た目の変化や第二性徴、心の変化を小学校学習指導要領に沿って小学4年生を対象に行っています。実施する看護学生は母性看護学概論、母性看護学各論Ⅰ、Ⅱを履修後の2年生で、母性看護学各論Ⅲの授業の中で保健指導の重要性や責任、対象理解について学びを深め学生4~5人のグループで授業指導案を作成します。



小学生が楽しんで学べるように、劇やゲーム・クイズを取り入れるなど、グループごとに思考を凝らします!

模擬授業を繰り返し、いよいよ各グループそれぞれの小学校で授業実施です!!

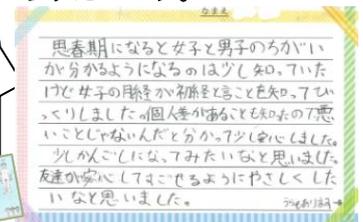


学生の感想 (原文ママ)

- 小学生に対して初めて授業を行って、小学生はこういうことに疑問を持つんだ、こういう反応してくれるんだ!ということを知ることができました。とても、楽しくできたので良かったです。すごく達成感を感じました。
- 指導案やパワーポイント、原稿などの作成を全て自分たちで行い、流れを想像しながら授業を組み立てることはとても難しかったが、小学生のとてもいい反応を見たら、たくさん工夫して何度も練習して頑張ってたよかったです。
- 相手に伝えるためにどうすべきか、その対象に合わせて考えるということはこういう事なのかと実感できる貴重な体験になりました。

小学生からの感想 (原文ママ)

- おねえさんたちが大人になるための大切な変化だとおしえてくれたので、体が変化するのは不安なことじゃないと思いました。
- ゲームをしているいろいろな変化には個人差があることがわかったので、変化が遅くても早くても大丈夫だと安心しました。
- お友達が体の変化にこまわっていても「だいじょうぶだよ。」と言ってあげたいです。



毎年この取り組みで看護師にあこがれを持ってくれる児童が
多くいます♪

小学校の先生からの感想 (原文ママ)

- 年齢の近い学生からの授業で子供たちも、変なテレもなく集中できてよかったです。私たちも楽しく学べたので、またぜひお願いしたいです。
- 専門的な立ち場の方との連携を通じて、学校も積極的に性教育の必要性を受け止め実施していくことを改めて考えさせていただけたと思う。

地域の中で、看護職者としての責任感が養われるこの取り組みがわが校の自慢です!



第3回わたしの学校自慢 「学生にとって心理的安全性のある実習環境の調整」

カテゴリー④ 連携:設置病院(大津赤十字病院)との連携した学生支援



1. 学校概要

学校名:大津赤十字看護専門学校

所在地:滋賀県大津市小関町 5-23 課程名:3年課程

1学年定員数:40名 修業年限:3年



2. 内容:設置病院である「大津赤十字病院看護部 実習指導部会(以下、部会という)」との連携を報告します

1) 実習指導者研修・指導者会議の共同企画・運営

連携の目的:心理的安全性のある実習環境の調整ができる

本校の実習指導目標:学生の個別的・段階的指導目標に基づいた支援ができる

病院の部会目標:実習指導者の役割を理解し、意図的な実習指導を実施できる

連携の目的に基づき、学校と病院が実習指導目標を立案し取り組んでいます

4月:大津赤十字病院 実習指導者部会と連携会議「年間の実習指導者研修・指導者会議企画検討」

5月～ 年間計画に基づき研修・会議運営 部会と学校との連携会議は定期的実施

【2024年度の企画内容の一例を紹介】

* 1年次実習(基礎看護学実習I)について具体的指導方法の検討(教員・実習指導者でグループワーク)

* 合理的配慮を必要とする臨地実習の勉強会

* 実習指導者の学生指導場面リフレクション(教員・実習指導者でグループワーク)

実習指導者の声

「教員と検討できることで目標を意識した具体的指導方法がイメージできる」

「個別的な支援の必要性がわかった」

「指導者1年目として自分自身の成長につながる」



教員の声

「実習指導者の考え、困り事、知りたい情報などの理解につながり連携に必要な指導案作成ができた」

2) 大津赤十字看護専門学校3年次「卒業前演習」(2月実施)

・3年次学生の基礎看護技術の臨地経験、修得状況と大津赤十字病院の新人看護師の状況を意見交換し、課題となっていることを踏まえて卒業前演習企画

【2023年度の卒業前演習内容の一例を紹介】

*大津赤十字病院看護部 副部長 講演「看護専門職としての自分の育て方」 Q&A コーナー

*設置病院で使用されている物品を使用して静脈血採血を経験しよう(知識・技術)

*大津赤十字病院で運用されている看護提供方式:固定チームナーシング・デイパートナー方式を踏まえて、パートナー(教員)と看護実践(日常生活援助)の経験をしよう

パートナーとの挨拶・打ち合わせ → 受け持ち患者の看護ケアアセスメント → 看護実践 → リフレクション

学生の声

「コロナ禍で実習での制限が多く、漠然とした不安の解消となった」

「新人看護師としてのイメージ(パートナーとの看護実践)ができた」

「標準予防策はバッチリ、自信がついた」



設置病院で4月実施される集合研修で卒業生の標準予防策の技術習得度が高いとフィードバックを受けました

今後も当校の強みとして設置病院との連携を強化し①看護学生の個別的・段階的支援 ②実習指導者の育成 ③心理的安全性のある実習指導環境の調整 を目指して取り組んでいきます

- 1) テーマ:「地域の暮らしを知る 農業体験」
- 2) カテゴリー:連携
- 3) 学校概要:①学校名:京都中部総合医療センター看護専門学校
 ②所在地:京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地I
 ③課程名:3年課程 1学年 40名 就業年限 3年

【ねらい】

本校は「地域で暮らす人々の生活や文化、価値を理解し慈しむ豊かな感性を持ち、常に誠実に対象に寄り添い信頼される」を教育目標とし様々な地域交流から看護を学ぶカリキュラムの構築をしている。地域・在宅看護論において農業体験を演習講義として組み入れており、農作業を教えてもらいながら互助・公助・自助の実際をインタビューする。

学生達は高齢者が健康を維持するための日常生活や病院受診の方法、代々受け継がれてきた農業という営みを継承していくことへの価値観などを学ぶ。そして受け継いだ次世代の方の暮らし、成人期での健康問題への取り組み、地域で支え合う子育てなど様々な世代の価値観や発達課題も学んでいる。

学生達は農作業の大変さだけでなく地域のコミュニティの必要性、家業を継承していくことの難しさ、過疎地の医療問題など多くの学びをしている。学生の中には「移住したい」「お祭りに参加してきました」など地域に関心を寄せている。この体験が病院から地域へと広い視野を持ち、地域を支える役割としての看護ができることを期待している。

●スケジュール

時間	内容
9:00~12:00	農業体験・インタビュー
12:00~13:00	地域の野菜を使ったお弁当を一緒に食べる。
13:00~13:30	学生からのプレゼンテーション・ご挨拶
14:30~16:10	帰校 学びのまとめ学習



学生の学びと農業体験の様子



農業体験を行い農家の方の暮らしについて学ぶことができました。夏場はビニールハウス内の気温が40度を超えることもあり熱中症や脱水にならないために季節によって作業時間を変えておられました。私達は脱水予防として経口補水液など糖分の多い飲み物を1日に2L以上飲むと糖尿病のリスクが高くなるため適度な量の補水についてお伝えしました。お昼には地域で採れた野菜を使った美味しいお弁当をいただきましたが、このような美味しい野菜を育てるために日頃から手洗いや感染症が流行っている時は人の多い場所へ行かないなど感染予防にも留意されるなど健康管理方法について学ぶことができました。(学生A)

水菜の栽培をされておりそのお手伝いをしながら「困った時は助けてくれる家族ぐるみの付き合い」「子育てがしやすい」など地域のコミュニティや1日の過ごし方、地域での活動、健康に対する意識などを聞かせていただくことができました。お話の中で私たちが応援してくださっていることを感じもっと頑張ろう!という意欲にも繋がりました。3年生の実習でもこの経験を活かして、頑張りたいと思います。(学生B)



カテゴリー;その他(学校環境改善など)

一般社団法人堺市医師会
堺看護専門学校

学生ファーストのための
タスクシフト

所在地;堺市北区
新金岡町5-10-1

看護第1学科;1学年
40名, 修業年限3年



◆(機械におまかせ)
給湯器

(タブレット教科書になっても、図書室を活用しよう!)
☆**司書さん**



新刊紹介・癒しコーナー
など充実の図書室



4月の新刊案内

講師の先生からの
献本です

4月希望図書
入りました

雑誌紹介

(先生に言えない気持ちを話してネ)
♡**学校カウンセラーさん**

【 教員の仕事内容 】			
印刷	✿講義資料・実習要項	出席管理	✿出席簿整理
	テスト		✿講義時間数チェック
外部講師対応	◆お茶出し	国試対策	学生指導
	講義打ち合わせ		✍国試に関する情報発信
	試験打ち合わせ		国試対策資料作成
試験	学生情報共有	国試対策教材作成	
	試験準備	模擬試験監督	
	試験監督	模試結果評価	
	✿採点表作成	国試対策指導	
	✿試験郵送手配	受験手続きガイダンス	
講義	✿採点結果入力	願書チェック	
	学習指導	受験手続きチェック	
	講義資料作成	臨地との実習調整	
	講義	実習要項作成	
	終了試験作成	実習オリエンテーション	
校務分掌	演習準備	臨地実習	実習指導
	✿演習物品購入手配		臨地実習指導者との連携
	演習		実習ふり回り
	学習支援	学校行事	入学式(準備・式典挙行)
保健	教材		戴帽式(準備・式典挙行)
	研修		卒業式(準備・式典挙行)
	人権(倫理)		学びの総括発表指導
	献血		学年交流会・オープンキャンパス
	☆図書		上記行事の学生指導・ふり回り
保健	✿授業研究・教材研究◆		
♡カウンセリング	学生指導		



(いつもありがとう!)
✿**教務事務員さん**

✿**教務事務員さん**
☆**司書さん**
♡**カウンセラーさん**
◆**機械等**
など、タスクシフトを行うことで、学生と向き合う時間が増えました♡
今回、改めて教員の業務を書き出してみても、まだまだタスクシフトできそうな部分がありそうです!

◆(移動時間が大幅減少!)
オンライン研修



和室のカウンセリングルーム



ポスマート & 国試対策

【テーマ】多職種連携への取り組み

【カテゴリー】④連携

【学校概要】地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院附属看護専門学校：3年課程、1学年定員40名、修業年限3年 所在地：大阪市福島区福島4-2-78



第5次カリキュラム改正に向け、
多職種連携どうする？

当校は単科であり、実践するには他校と連携・協力が必須
他の学校と交流できたらいい
JCHO 大阪病院の附属の学校のメリットは大きいけど、
学生はなかなか外部に出る機会がないよね
できれば、他校とか外部とのつながりをもてるといいな

そういえば、大阪病院は森ノ宮医療大学と提
携しなかった？
森ノ宮医療大学はIPE(専門職間連携教育)
に力を入れていたはず。相談してみよう！！

★当校の『多職種連携』授業

- 1単位 20時間
- IPW論に関わる多職種について事前学習
- 鍼灸学科の鍼灸師については、森ノ宮医療大学から講師を招き講義を実施し、職種や連携についての学びを深めた

【当校で実施】

- 1回目：科目ガイダンス
 - 2回目：鍼灸についての講義
 - 3～5回目：事例検討のためのグループワークの実施
- 【森ノ宮医療大学で実施】
- 6～8回目：大学の他学科の学生達と合同のグループワーク
 - 9回目：発表準備
 - 10回目：発表

2021年森ノ宮医療大学へ相談
IPEの中のIPW論(InterProfessional
Work)への参加が決定

★IPW論・多職種連携★

- 森ノ宮医療大学 7学科と連携
看護学科・理学療法学科・作業療法学科
臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線
学科・鍼灸学科・他大学発達栄養学科



教員のねがい

- ◇ 患者さんのなりたい姿を実現させるために、どうアプローチができるか、看護以外の職種の視点でも学んで欲しい
- ◇ アサーティブなコミュニケーションを意識して、話し合いをすすめてほしい
- ◇ 他の学校の学生と関わることで、様々な刺激を受けて成長してほしい
- ◇ 他の学校や他の学部の子供達と関わることは、これまでの学校生活ではなかった。楽しんでほしい

～授業の様子～

緊張…けど、少しずつ打ち解
けてきました！



なかなか意見がまとまらない…。
けど、諦めずに頑張ろう！

ドキドキの発表。
上手くできるか緊張！！



無事に全て終了、
他学生とも協力できました。
お疲れさまでした。
みんなありがとう！

～授業後の感想～

- ✓ 多職種でどういう職種がありそれぞれが患者にどう関わっていくのかがわかり、今後看護師として働いていく上で参考になる授業であった
- ✓ 看護の視点だけでなく、様々な視点から物事を考えることができた
- ✓ 他職種と関わる中で、看護師として自分の意見をもって関わることの大切さを学んだ
- ✓ 一番大切なことは、他職種間で目標を共有することの大切さを学んだ etc

【テーマ】 68年引き継がれた朝礼 ～ 120人へ響け！私の3分!! ～

毎週金曜日の朝に開催される。

目的は、自主的で健全な規律ある学校生活を送り、スピーチを通して、自己の考えや感じたことを相手に伝える力を養うこと。

内容：①校歌合唱 ②各学年から1名3分間スピーチ
③スピーチに対する感想

120人を前にして緊張でいっぱいですが、今日も自分を表現します！大きな拍手でホッ

学校概要



独立行政法人 地域医療機能推進機構

大阪病院附属看護専門学校

所在地：大阪市福島区福島4-2-78

課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年

カテゴリー：⑤その他 伝える力と聴く力を養う

大勢にむけて話すのはめっちゃ緊張するけど、(実習での) **自分の看護を自慢できるいい場所**です。(3年生)
校歌歌えるのすごい!! (1年生)



2024年

校歌のピアノ伴奏は学生が弾いています♪

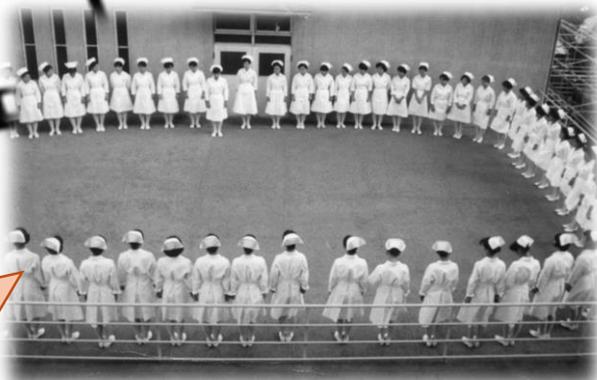


継承

succession



1956年(開設)



家族や友人との日々の出来事、実習の学びを話す先輩の姿はかっこよく見えていました。(39回生)
即興で感想を述べるのは難しいから、スピーチする人にあらかじめ内容を聞いて感想を言っていました。苦笑(33回生)

1) テーマ「地域に触れて、感じて、考えて学ぶ」

2) カテゴリー: ②教育内容(臨地実習)

3) 学校概要: 学校名: 奈良県病院協会看護専門学校 所在地: 奈良県橿原市大久保町 454-10

課程名: 看護専門課程 1 学年定員数: 40 名 就業年限: 3 年

人間は本来地域で生活しており、その人なりの暮らしがある。生命・健康・暮らしを支える看護師は、暮らしの基盤である地域を理解し、人々の暮らしを理解する必要がある。そこで、地域・在宅看護論実習では人々の暮らしの場で行われる看護を学び、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う実習とする。地域を理解する第1段階として、1年次の病院実習前に暮らしの場を知る実習を行う地域・在宅看護論 I を設定した。

本校は奈良県橿原市に所在し、周辺には万葉集にも出てくる大和三山や歴史ある神社や史跡が多くある。また、公的施設も多い地域で、高度医療を提供する特定機能病院や救急医療を担う病院、保健センター、訪問看護ステーションや福祉施設などの保健体制が整った地域にある。そこで学校周辺の地区踏査や地域住民へのインタビュー、グランドゴルフ等のコミュニティの参加などを通して住民の人々の暮らしぶりを知る。同時に奈良県の南部に位置する川上村、天川村の過疎地域の地区踏査、隣家ははるか遠くにある家に暮らす高齢者宅への訪問、階段 100 段くらいある山の中腹の家までの宅配のお手伝い、さらに、過疎地域で活躍するコミュニティナースと共に健康チェックなどを通して、そこに住む高齢者とコミュニケーションをとりながら生活に触れ、多様な価値観を感じ取る。そして健康と暮らしを支える取り組みを考え、楽しく学ぶ実習を行っている。



過疎地に住む高齢者とふれあい、インタビューをする学生



背負子で荷物を背負って、100 段先の家へ届ける学生

・実施した感想

この実習で、そこに暮らす人々にふれあい、様々なライフステージの方の生き方を知り、元気に生きる人々の強さを感じ、笑顔をいっぱい頂いた。また、交通の不便や病院がない等の生活する上での不便などを知り、それでもこの地に住む工夫や多様な価値観や生き方を学んだ。また、そこでの暮らしを支える看護を考えることができた。そして、奈良県の良さを改めて感じ、地元への愛を深める実習となった。



グランドゴルフに参加し笑顔いっぱいの学生

「めざめちゃん講座」で国家試験直前の夜型生活からの脱却を！

～Zoomで毎朝会いましょう～

カテゴリー：⑤その他（学生の学習生活支援）

学校概要：田北看護専門学校

所在地：奈良県大和郡山市城南町 3-25

課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年



始めた経緯：

従来は国家試験直前は朝から登校し勉強することで、孤立しないようにまた、生活リズムを整えるよう指導してきた。

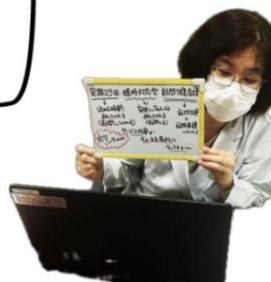
しかしコロナやインフルエンザの感染症罹患の不安などから、登校させる困難さがあった。とはいえ、家庭学習では学習の進捗状況が把握できず直前の精神的サポート不足を感じた。



そこで、コロナ禍での授業方法で取り入れてきたWeb会議システム（Zoom）を使ってサポートすることにした。学生が参加する意義やメリットを感じられるよう「めざめちゃん講座」と命名し、プチ講座を行った。

「めざめちゃん」講座の方法：

- ☺ 国家試験問題を2～3問出題し解説講座を行う。
- ☺ 教員が交代して担当する。
- ☺ 気になる学生は講座終了後、声をかけ画面越しでプチ面接を行う。
- ☺ 毎朝定刻に30分程度実施。



アンケート結果

- ☺ めざめちゃんがあってよかった。国試前の緊張がまぬがれた。
- ☺ 先生方の声や笑顔で不安が軽減できました。
- ☺ 学校がなく自己学習のため不安な毎日でしたが、毎朝先生やみんなと画面でも会えることは勉強だけではなく励みにもなりました
- ☺ 新出題基準やホルモ系や施設、サービス、法律のややこしい問題、難しいけどよく出題される問題を教えてもらいながら一緒に解くととても勉強になります。先生方の声や笑顔で不安が軽減できました。

あってよかった	66.7%
参加することで朝起きることができた	46.7%
勉強のスイッチが入った	26.7%
1人じゃないと実感できた	26.7%
励みになった	43.3%
時間は適当であった	23.3%
必要ない	6.7%



国試直前にも関わらず、季節的に寒い朝、なかなか起きられず、だらだらと生活リズムが整わず、その結果、1日の限られた時間を無駄にし、効果的な勉強ができない学生が多い。またこの時期は登校しないため、一人自宅で孤立して勉強している学生もいる。

そこで、この「めざめちゃん講座」により、画面を通し、毎朝学生の顔を見て様子が確認でき、参加してこない学生に連絡・確認することで、タイムリーに体調などの把握ができ、対応できるメリットを感じている。

そして画面越しではあるが、学生同士の交流も図れ、孤立させない支援が可能になっていると感じている。

テーマ「久高島への訪問看護の体験実習から地域包括ケアシステム構築の一端を担う看護師の役割を学ぶ」

カテゴリー：③教育方法（実習）

1. 学校概要 学校名：学校法人湘中央学園浦添看護学校 所在地：沖縄県浦添市当山2丁目30番地1号
課程名：3年課程 1学年定員数：120名 修業年限：3年

2. 内容 本校の教育理念は、「愛・智・技」を基盤に、看護師として必要な専門的知識・技術・態度を修得し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。第5次カリキュラム改正では、地域包括ケアシステムの推進に向け「地域・在宅看護論」へと名称変更し、地域で生活する対象や療養の場の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力の育成が求められている。このような中、島嶼県の沖縄における地域・在宅看護論実習で、本島地域での実習に加え、小離島への訪問看護の体験実習することで、同じ県内地域であっても社会資源の格差や人とのつながりなどの地域特性に多様性があることを体験し、行政や多職種のみならず住民との連携により、地域の実情に合わせて対象のニーズに応える支援体制を構築する看護師の役割を学ぶ機会に繋がると考えた。

1) 体験学習した学生の学び



久高島への移動手段は、船で片道15分～25分で南城市知念の安座間港から出発し、4～6便あるため本島との日帰りが可能な離島です。島民の人口は約200名です。船からみた島は、平坦な形状で高い山がありません。



久高島は神の島と呼ばれ、御嶽が所々にあり、12年に一度のイザイホーという神事で使われていました（1978年が最後）。この写真にあるフォー御嶽も、とても神聖な場所、島のもものは石ころでも島外に持ち出しはいけないという決まりがあります。



久高島には、保育園・小学校・中学校が一カ所に集まっています。島は平坦な地形であることから、学校の隣には、津波避難所が併設されています。



また、学校の運動会は、島民全員参加で、小さい子からおじい、おばあまで全員で玉入れるなど家族のような関係性があります。



島の医療機関は診療所が一つで、県立南部医療センターから医師と看護師が1名ずつ派遣されており、本島の病院と連携しているためヘリコプターの救急搬送も受け入れ可能となっています。



夜間に急患が出た場合、自衛隊のヘリを要請しますが、防衛省を経由しての要請になるため3時間かかります。そのため、漁師さんご厚意で、個人漁船で本島に向かうなど島民同士の助け合いが強い島民性を学びました。



久高島はウミヘビ（イラブー汁）を食べる文化があると聞いていたので、その食文化を体験しようと食堂を探していたら休業日でした。その様子を見て話しかけてくれた島民のおじさまがおり、その状況を聞いて「自分が育てたスイカでも食べていきなさい」と美味しいスイカを振舞って頂きました。その体験を通して、他者のために想い行動する優しい島民性を学ぶことができました。

島内での商店は、2か所で、食品から日常生活用品、猫の餌まで品揃えが豊富でした。また、商店の人が保育園の職員も兼ねており、少ない人口でも複数の役割を担い協力し合っていることを学びました。



訪問看護では、酸素療法が必要な幼児で保育園に通うための支援として、訪問看護の介入が開始した事例である。疾患の特徴として全身の筋緊張の低下があるため、体幹を鍛えることを目的に遊びを通したりリハビリを行い、母親や保育所と共有することで児の発達を支援していた。島には、公的サービスは乏しいが、島民がみんな顔見知りで声を掛け合う慣習があるため、その子の保育園への通園も順調に進んでおり、島民同士の交流による母親への育児サポート環境が自然にできているなどの好影響もあった。これらの地域の実情に合わせて行政と本島の訪問看護事業所が連携することで島特有の課題解決に向けた支援体制の構築の一端を担う看護師の重要な役割を学んだ。

2) 共有学習した学生の反応：「離島での医療体制など普段知れない現状をたくさん知ることが出来てよかった。」

「離島という社会資源が少ない地域で、介護が必要な状態になっても暮らし続けるのは難しいのではないかと考えたが、住民同士の結びつきが強く、地域の人達で支え合う実態から、インフォーマルサービスも社会資源として大きな役割を果たしていることを学ぶことができ、貴重な機会となった。」などの反響があった。

3) 実施した教員の感想：今回の離島での同行訪問における学生の学びは、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割の理解を深めるとともに、卒業後、島嶼県である沖縄県、また、島嶼国である日本の看護職者として、多様な地域特性を踏まえた上で、地域での生活を見据えた連携の在り方に繋がっていきと考えられ、本校の教育理念にある“社会に貢献できる人材の育成”により拡がりを持たせる一助となることが推察された。